

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 2 月 1 日

【評価実施概要】

事業所番号	3891400016		
法人名	原井川建設有限会社		
事業所名	グループホーム あいの里		
所在地	愛媛県西予市野村町阿下6号588番地 (電話) 0894-72-3737		
管理者	眞田ハル子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 19 年 12 月 11 日	評価確定日	平成 20 年 2 月 5 日

【情報提供票より】 (平成 19 年 11 月 20 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 10 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	14.2 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(3) 利用者の概要 (平成 19 年 11 月 20 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護 1	9 名	要介護 2	7 名
要介護 3	2 名	要介護 4	名
要介護 5	名	要支援 2	名
年齢	平均 82 歳	最低 66 歳	最高 99 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者が地元出身者で、地域の高齢者の力になりたいとの思いから開設したホームである。ホーム周辺は畑が広がり、山々を見渡せ、四季を感じると共にのどかな雰囲気の中で散歩を楽しむことができる。理念の「私たちは家族です」の言葉どおり、利用者と職員が共に助け合い、暖かい会話を交わし、明るい笑顔で過ごしている。その様子は、温かい家庭に大勢で暮らしていると感じられる。地域のボランティアの方々が非常に協力的で、利用者のホーム内外での活動を支える原動力にもなっている。運営者、管理者、職員が共に利用者や家族のためにホームをよりよくしていこうと同じ方向を見ていることが感じ取れる。開設間もないが、地域に根付いたホームである。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

平成19年4月1日開設のホームであるため、今回が初めての評価である。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

管理者、職員は評価の意義を十分理解し、毎日3~4項目ずつ1時間程度、その日に出勤している職員で話し合い、1か月かけて丁寧に自己評価している。その結果、利用者が居心地よく過ごせる居室の環境づくりを支援していくことを今後の課題として、職員間で意識統一している。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

運営推進会議に大勢の地域の方の参加を得、活発な意見交換がなされている。ホームの行事予定を聞いた地域の方からボランティアの申し出があり、コスモスの花見には車を出してもらい、2ユニット合同で出かけることができた。また、敬老会、手打ちうどんを打つ等ホーム内での行事にも尽力いただき、利用者も大変喜んでいいる。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

退居した利用者の家族が、お世話になったホームのためにとボランティアで来訪していることから、家族との信頼関係は十分築かれていることがうかがえる。家族の面会時に利用者の暮らしぶりを話し、家族が意見を言い易いよう配慮している。家族の要望は介護計画に反映させている。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

自治会に加入し、地域の共同作業にも運営者が参加している。地域の方に野菜畑の世話を手伝ってもらったり、利用者と話してもらったりと日常的にお付き合いしている。地域行事にも積極的に参加し、牛鬼、神輿、亥の子に入ってもらったり、神社の神楽を見に出かけたりしている。災害時にはすぐに駆けつけるという力強い言葉をいただいている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名	グループホーム あいの里
(ユニット名)	1F
記入者(管理者)	
氏名	真田 ハル子
評価完了日	平成 19 年 10 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 独自の理念をつくっている。 (外部評価) ホームを大きな一つの家庭と捉え、利用者と職員が共に家族の一員として支え合うことを第一に考えている。さらに、地域密着型サービスを踏まえ、利用者が地域住民として安心して暮らせるよう支援していくことを理念として謳っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念をいつでも目に付きやすい所に貼って、常に心しながら理念に添ったケアをしている。また機会あるごとに理念を理解し確認することになっている。 (外部評価) 玄関、居間の目に付きやすい場所に理念を掲示し、共有している。利用者にも「私たちは家族ですよ」と日常的に声をかけ、職員のケアを気兼ねなく受けられるよう配慮している。また、家族の一員として、持てる力を発揮してもらえよう役割を担ってもらい、職員全員が感謝の言葉をかけている。その時の利用者の笑顔が印象的であった。		職員会議等にも話している。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 入居時には必ず利用者、家族さんに当ホームの理念については十分説明し理解を得ていると思っている。また家族会の折りやホーム便りに於いても理念について話したり、記載している。地域の方や運営推進会議の時にも説明をして理解を得るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 十分努めている。野菜ができたからと届けて頂いたりもする。		毎日の散歩や買い物の時、通院、理美容室での会話を通して気軽に挨拶ができています。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の自治会に組入りをして共同作業、常会、催し物にも参加している。回覧版もまわしてもらっているので、利用者さんと回覧版を持っていく。敬老会の演芸の練習にも集会所を気持ちよく使わせてもらった。 (外部評価) 自治会に加入し、地域の会議や共同作業には運営者が参加し、地域との付き合いを大切にしている。また、中学生の職場体験を受け入れ、夏休みには中学生がボランティアで来訪し、利用者を楽しませている。運営推進会議のメンバーから広がった地域のボランティアの方々に、外出時や野菜畑の世話等でも協力を得ている。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の高齢者の方がボランティアとして、来ていただき野菜畑の世話や利用者さんの話相手をして下さっている。私たちはこの方たちをホームの敬老会に招待している。	※	地域全体の高齢者のお役に立つようなことができればしてみたいと思っているが、今後検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 意義は十分理解している。改善をしながら取り組んでいる。 (外部評価) 運営者、管理者、職員は、評価の意義を十分理解している。職員一人ひとりが自己評価に取り組み、1か月間毎日1時間、出勤の職員で話し合い検討し、まとめている。自己評価の結果、利用者の居室をその人らしくし、居心地よく過ごせるよう支援していきたいとの共通意識を持っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ホーム内のことはすべて報告し、適切なアドバイスを頂きサービス向上に活かしている。委員さん達は自分の事として真剣に討議して頂いている。 (外部評価) 2か月に1回開催し、ホーム側からは、行事報告や予定の説明を行っている。行事予定に対し、メンバーからボランティアの申し出があり、協力を得ている。積極的な意見交換があり、畑の水遣り用に雨水を溜めてはどうかというホームの案に対し、地域の方から、地下水を利用するとよいとの意見が出され、増築時に実施することを決めている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市町村担当者とは気軽に何でも相談できる関係である。介護保険の訪問調査にも度々訪問して頂き職員、入居者とも打ち解けて話ができる関係である。 (外部評価) 年に1, 2回介護相談員が来訪し、利用者と話し、サービスの質の向上のために助言している。ホーム内外の改築の際、市担当者に相談し、指導してもらっている。また、地域包括支援センター主催のケアマネ連絡会に出席し、情報交換し、居室の空き状況を報告している。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) これらの制度に関する講演会には度々参加しているが、まだ十分には理解できていない。	※	まだまだ実際問題として当たってないので勉強しなければと思っている。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待については日頃から十分理解している。身体的な虐待は絶対的に行っていないが、言葉の虐待にも十分注意するよう指導している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居契約の際十分な時間をとって説明をしているので理解して頂いているものと思っている。またその際何でも気になることが出てきたときには遠慮せずに言って下さいと伝えている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) やれていると思っている。利用者の表情やしぐさ、態度などから何か訴えたいことが察せれば個別に話しを聞く機会を作って対応している。その結果は申し送り、職員会議等に図って対処している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会時や利用料納入時、お便り等において報告し、病状等の変化は電話で直接報告をしている。金銭管理についても随時報告している。 (外部評価) 家族の面会は利用者の喜び、との認識から、少なくとも月1回は面会に来てもらえるよう、利用料を現金集金にしている。面会時には利用者の暮らしぶりや健康状態について報告し、金銭管理についても小遣い帳で確認してもらっている。利用料の請求時に、利用者の素敵な写真を多数掲載した季刊のホーム便りや手紙を添えて送っている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居時は勿論、面会時等にも意見や苦情処理については十分説明をしている。苦情らしき意見を頂いたときはその都度迅速に対応している。 (外部評価) 退居した利用者の家族が、お世話になったホームのためにボランティアで来てくれる事からも、家族との信頼関係が良好であることがうかがえる。面会時に声をかけ、要望を直接口頭で聞いている。なお、苦情相談窓口は重要事項説明書に明記し、入居時及び面会時に繰り返し説明している。		「ご意見箱」を玄関に設置しているが利用はなく直接口頭や電話で言っている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月1回はユニット別に職員会議を全員参加で行っており、運営者もその都度出席している。職員は気兼ねなく発言できる機会がある。運営者は職員の意見を十分に聞き対応している。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 行事等や利用者急変時、勤務者をふやして無理のない勤務ができ、利用者、家族の安心安全に努めている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 当社は福祉関係は当ホームだけであり異動はない。離職者もない。2ユニットであるが、自由に行き来し合同で行う行事も月に2~3回は行っている。職員も必ず出勤時や退社時には他のユニットに顔を出すようにして馴染みの関係を築いている。 (外部評価) 職員間の関係が良好で、運営者の理解もあることから、職員の異動や離職はないが、利用者の居室が変更した場合を想定し、他方のユニットの職員や利用者も顔馴染みになるよう1階と2階で交互にミニ喫茶を開く等、2ユニット合同の行事を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修等には必ず2名ずつ参加できる体制で、常勤、非常勤を問わず研修を受ける機会を設けている。人材育成のための研修も計画的に取り組んでいる。運営者は非常に協力的で研修参加者は勤務として取り扱っている。 (外部評価) 運営者は、職員育成のため、研修参加を勤務扱いにし、参加費も負担している。職員も参加意欲があり、研修に参加した職員は、月1回のケア会議で報告会を開き、伝達講習している。ホーム内では、自己評価のため、項目の理解とねらいについて学習会を開いている。		研修参加者にはレポートの提出を求め、職員会において報告も義務付けている。職員は真面目に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 研修会時の情報交換や相互評価事業にも参加しお互いのホームの質の向上に向けて努力している。グループホーム以外の特養や老健にも利用者を伴って訪問時交流をしている。 (外部評価) 外部研修参加の際に情報交換したり、県グループホーム連絡協議会主催の相互評価事業に参加するなどしてサービスの質の向上に役立てている。同業者との交流を通じ、他ホームのモニタリングの方法を取り入れる等、積極的により良いケアを目指している。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 普段から何でも相談できる関係を作っている。年に2～3回は親睦を深める行事も行っている。運営者も非常に好意的に支援してもらっている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は職員を大切にきめ細かな心配りをされている。職員はやる気があり、向上心を持って仕事をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 信頼関係が一番大切だと考えており話を十分聴くようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用者と同様に考えているが特に家族との信頼関係がより良いケアをしていく上には不可欠であると思っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ショートもデイもまだ対応出来ない状況であるが比較的短期(3ヶ月程度、または冬の間)の入居については柔軟に対応している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 数日間のテスト入居など必要に応じて柔軟に対応している。 (外部評価) ホームに見学に来てもらい、ホームの雰囲気を感じてもらっている。介護老人保健施設からの利用が多いが、在宅の場合は自宅も訪問している。今の所、入居後に不穏な様子もなく、すぐに馴染めている。入院先の主治医からの要請で、テスト入居を数日間行い、馴染んでから入居した利用者もいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 職員は人生の先輩として尊敬しながらケアに努めている。日頃の生活のなかで教わることも多々ある。 (外部評価) 知識豊富な利用者から日常的に教わるが多く、特に歴史に関する事柄は興味深く拝聴している。また、利用者と一緒に歌を歌う際、途中で忘れた歌詞を、皆で少しずつ思い出しながら歌い終えた時、利用者と職員が共に喜びを分かち合う場面があるとうかがった。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 一方通行にならず双方が何でも相談できる関係を築いていることにより、一緒に本人を支えていくことができている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族の面会が多いということはより良い関係ができてい るからだと思う。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人が入居前にかかっていた医療機関や薬局、主治医との関係を継続したり、復活したりして馴染みの関係を維持している。盆彼岸には墓参りにも帰ったりして近所の人との関係を断ち切らないようにしている。面会もいつでも気軽に来て頂けるような配慮もしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) マイペースを尊重しながらも家族のような雰囲気でお互いが助け合い、支え合っている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 特養などへの住み替えについても、施設と情報交換をしたり利用者を訪問したりして馴染みの関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) マイペースを尊重しながらその人らしくを基本に取り組んではいるが、まだ十分とは言えない。 (外部評価) 一人ひとりの利用者との対話を大切にし、会話の中から利用者の思いや意向を把握するように努めている。中には無口な方もいるため、声かけを工夫し、その時々利用者の喜ぶ表情やうなずきから判断している。最近センター方式のシートを導入し、さらに詳しく把握するよう取り組んでいる。	※ ※	センター方式のシートを使って検討したいと思い一部取り組みを開始したばかりである。 その人らしい暮らしを支援していくためには、利用者一人ひとりの希望や持てる力を把握することが大切であり、ホームで取り組み始めたセンター方式のアセスメントシートを蓄積し、役立てていくことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の面接、担当ケアマネからの情報、家族、本人からの聞き取りや友人知人の面会時の話、本人との日頃の会話からも把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) マイペースを尊重しながら共同生活の中で個々の出来る力を引き出すように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、特に家族には必ずケアプランについての意向を伺いプランに反映している。職員は課題について全員（ユニット別）が意見を述べたり情報の共有をはかっている。 (外部評価) 入居時に本人及び家族の希望を聞き、入居後に利用者のできること、できないことを見極め、アセスメントシートを作成している。それを基に職員全員で意見を出し合い、介護計画を立てている。新たな計画を作成する前には必ず本人や家族の意向を聞き、介護計画に反映させている。常勤と非常勤の職員二人組の担当制に移行中である。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月ごとのモニタリングとケアプランの見直し、更新時や身体状況の変化に応じて適宜現状に即したプランに変更を行っている。 (外部評価) 基本的には3か月に1回見直しをしている。身体状況の変化があった場合は即時見直し、新たな計画を立てている。管理者が、同業者が行っていたモニタリングの方法を取り入れ、日勤者が毎日サービス目標を評価するようになり、職員も日々介護計画を意識し、見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) まだまだ十分とは言えないのじゃないかと…気づきや工夫が他にもあるのでは？	※	センター方式のシートを使えばもっと良いものになるのではないかと考えているので実践したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 当事業所は多機能ではない。 (外部評価) 利用者の要望に応じ、花見、墓参り、買い物、通院等柔軟に支援している。大勢の時は車いすをトラックで運んだり、リフト付きの介護車両を用いている。また、訪問看護師と利用者の状態を相談し合い、薬を減らしていく支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 地域資源の協力は必要に応じて受けている。(一般ボランティア、演芸ボランティア、中学生の職場体験、サマーボランティア、ウインターボランティア等)		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 他のサービスの利用はできない。只医療系の訪問看護は受けている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域包括支援センターの職員とも関係はできている(包括主催の会合にも参加している)が協働するような必要性は今のところない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 十分できている。 (外部評価) 入居前からの馴染みの医師に引き続き診てもらえるよう支援している。受診介助は管理者が行い、結果は電話で家族に知らせている。インフルエンザの予防接種は協力医療機関の往診により実施している。また、定期健診としてそれぞれのかかりつけで胸部レントゲン写真の撮影もしている。		6人は毎月血液検査等もあり定期的に受診している。残りの方の2ヶ月に1回は受診し日頃の健康管理に気をつけている。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 必要な利用者については専門医にもかかっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 受診先の看護師とは何でも相談できる関係であり好意的である。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院した場合には、職員の誰かは毎日訪問し情報を得るよう努め、主治医、看護師との連携に努めている。信頼関係も大切にしている。早期退院に向けての話も都度行っている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 利用者、家族の意向を第一に主治医と相談しながら対応している。情報は職員間で申し送り等で共有している。 (外部評価) 重度化した場合は、家族の意向を確認し、主治医と相談の上、ホームでできる限りの支援をしている。今後も、本人、家族の要望に沿えるよう、積極的に取り組んでいく方針である。そのためにも、管理者は、今後看取りケアについての勉強会が必要であると考えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 利用者、家族の意向を第一に主治医と相談しながら対応している。スタッフ間でもそのことについて十分話し合っ対応している。	※	終末期ケアや看取りの指針も検討したい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 使い慣れた物品を持ち込んだり、施設からであればベッドの向きなども可能な限り再現するようにしている。家族にも住み替えによるダメージについて話し協力を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 個人の尊厳を傷つけない対応、言葉かけに努めている。引継ぎ等にも個人名は出さないようにしている。 (外部評価) 居室の引き戸の内側には長めの上品な暖簾を付け、戸が開いても廊下から直に居室の中が見えないよう工夫している。申し送り時にも、利用者の名前を声に出して他の利用者に聞かれないよう、書類を広げて伝達している。声かけは優しく、柔らかな方言で行われている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 本人が自己決定できるような言葉かけや待つゆとりを持って対応するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々のペースを大切にしている。 (外部評価) 散歩の希望があるときは、1日に何度も出かけている。外出の好きな利用者には、玄関周りの花の世話や水遣りをお願いし、自由に外に出てもらっている。入浴日に拒否があった場合は、無理強いせず、翌日の入浴を約束している。テレビで紅葉狩りを見ていた利用者から見に行きたいとの希望があり、当日早速出かけたこともある。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 衣服の選択、理美容も本人の希望にそって支援している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜の収穫、下準備、食事、後片付けと個々のできる力を見極めながら職員と共に楽しんでしてもらっている。どんな些細なことでも必ずありがとう！助かりますなどと礼を言うように心がけている。 (外部評価) 食材の下準備、机・食器・お盆拭き、買い物を職員と利用者が一緒にし、食事中も和気藹々と話しながら食事を楽しんでいる。一人ひとりが自分のペースで食べているが、食べ始めは挨拶の係の利用者が全員が座るのを待ってから挨拶し、一緒に食べ始めている。自分たちの育てた野菜など、新鮮でおいしい材料を使用している。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) お酒ビールは行事事には出すが少し飲まれる程度で要求もない。タバコは誰も吸わない。おやつは希望にそっている。月1回のミニ喫茶ではメニューをつくり好みのものを選んでもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 昼間は布パンツで夜だけ紙パンツにしたり、尿パットを昼夜使い分けたりしてなるべくオムツの使用を少なくするように努めてはいる。トイレは洗浄乾燥機能つきで清潔が保持できる。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 基本的には隔日であるが、夏場など希望があればシャワー浴など適宜対応している。また便失禁があれば下半身浴なども随時行っている。 (外部評価) 利用者のゆっくり浸かりたいという希望に沿い、一人の入浴時間を長く取っている。一人ひとりの持てる力に応じて、自分で入浴できる方には見守りと声かけで支援している。基本的には1日おきの入浴であるが、入浴日に拒否があった場合は、強要することなく、翌日入浴する約束を利用者と交わすなど柔軟に対応している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 室内の明かりや室温寝具等こまめに気をつけて安眠の確保に努めている。適宜足元灯もつけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 家族の一員としての役割、できる力を活かせるような支援を心がけている。カラオケで懐メロを歌ったり、手作りの歌本をつくり童謡や唱歌を歌い大きな声を出すことでストレス解消にも役立っている。 (外部評価) 家事を進んでする利用者が多く、掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、台拭き、食事の下準備、食器拭き、お盆拭き、買い物、畑仕事等の役割を担っている。調査日にも、気持ちよく手伝い、職員からのお礼の言葉に笑顔で答える姿が見られた。カラオケで歌うことや両ユニット合同で開いているミニ喫茶は、利用者の楽しみになっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には管理者が預かっているが、お金を持っているといわれる方については小額を持たせていて、時々確認をしている(問いかけで) 家族にもそのことを伝えてある。お金を持っていても持っていないでも不安になる方もあり、個々の対応で良いと思っている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気の良い日には体力に応じた散歩や日向ぼっこ、ホームの買い物の手伝い、野菜畑や花壇の世話など個々の体力を見極めながら支援している。 (外部評価) 外出は、利用者の気分転換のために重要であると認識し、天気の良い日は車いすの方も含め、散歩に出かけている。散歩は長短それぞれコースがあり、利用者の身体状況等により選んでいる。毎日、ユニットごとに利用者1～2名と食材の買出しに行っている。また、野菜畑や花壇の手入れ、行事での外出も多い。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 町外での行事にも出来る限り出かける機会をつくり、ボランティアの協力を得ながら出かけている。コスモスマつり、かまぼこ板の絵展覧会、そうめん流しなどは年中行事である。家族も機会をとらえては適宜ドライブや親戚の家を訪問したりされる。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙を書くように働きかけたり、電話の希望があればその都度対応している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会時間の制限もなくいつでも誰でも自由に面会できゆつくり話が出来る環境をつくっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束はおこなっていない。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 居室に鍵はない。玄関の鍵は夜遅出が退社してから施錠し翌朝7時前にははずしている。 (外部評価) 居室や日中の玄関には鍵をかけていない。現在外出傾向の強い利用者はいないが、常に見守りをしており、玄関に佇む利用者や帰宅願望のある利用者には声をかけ、話をしながら気を紛らわせるようにしている。また、外出の機会を多く持ち、ストレスを溜めないよう配慮している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 一人は絶えず見守りや利用者の行動が把握できる位置で記録を書くなどして安全に気を配っている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 危険物となりそうな物品の保管は職員間の取り決めにより利用者の目の届きにくい場所に保管している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 身体状況の変化による事故を未然に防ぐように、申し送り等で徹底している。	※	それぞれ個別の事故対策マニュアルを作成したいと考えている。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 応急手当の訓練は受けているが、実際にできるかは疑問がある。	※	応急手当や初期対応の訓練を定期的に行いたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) ホーム単独での避難訓練を毎月1回行っている。非常階段も傾斜を緩やかにし、手すりも設置した。近所の協力も得られる。消防詰め所も近い。運営推進会議で消火栓の設置も検討してはと言うことで、地区で相談をして頂く予定になっている。 (外部評価) 年2回、昼・夜間想定で消防署の指導のもと避難訓練を実施している。加えて月1回ホーム独自に避難訓練をし、夜間想定で全職員が誘導できるよう順番に訓練している。非常階段の傾斜を緩やかにし、手摺りを設置したため、避難し易くなっている。非常階段に慣れてもらうため、散歩の際に繰り返し利用している。		台所のガステーブルを火災防止のためIHに替えた。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 入居時や身体状況の変化に応じて家族には説明し理解を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日のバイタルチェックにより体調の変化を早期に発見し臨時の受診で対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬の情報は職員間で共有している。通院介助はすべて管理者が行っており、受診状況、検査結果、薬の変更は申し送り個人介護記録に記載している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 水分補給をこまめに行い、繊維性の食事、日々の散歩など気をつけているが、下剤の必要な方は半数いる。排泄チェックを行い必要最小限の服用にしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後歯みがきを行っている。歯のない方も口腔内の洗浄をして口の中に食べかすを残さないように気をつけている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食の食事摂取状況を記録して1日の様子が一目でわかるようにしている。身体状況に応じて食べやすい食事形態にしたり、飲み込みを容易にするためとろみ剤を使うこともある。水分量についても気をつけている。 (外部評価) 管理栄養士の立てた献立に基づく食材を購入し、摂取カロリーや栄養バランスについて大体の目安を把握している。食事量は、主食と副食に分けて毎食記録している。水分をこまめに摂取できるよう支援し、1日2リットル近く摂取できている。また、糖尿病の方には主食でカロリー摂取を調節している。	※	ホームでは、知り合いの栄養士に、栄養バランスやカロリー摂取量について専門的な観点からチェックしてもらうことを計画している。専門的な立場からアドバイスしてもらえるよう、定期的に点検してもらうことを期待する。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 普段から手洗い、うがいの励行、消毒薬を使つての清掃、巷で発症すれば、警戒モードの対応、感染者が出た場合の対応と切り替えて行っている。職員については病原菌を持ち込まない、持ち出さないように心がけている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材は毎日購入し鮮度保持に努めている。食器や調理器具の衛生にも注意を払っている。(消毒、乾燥)		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関先にベンチを置き日向ぼっこや外気浴をして気分転換を図ったり、畑やプランターには季節の花を植えて親しみやすい環境である。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 行事事の写真の貼付やインテリア、神棚の設置、季節の花を生ける、鈴虫の飼育などを通し生活感や季節感が実感できる。 (外部評価) 玄関周りは葉牡丹、パンジーを植え、明るい雰囲気である。居室やトイレの間口を広げ、車いすに対応できるように改修している。12月中旬の調査日にはクリスマスツリーやリースが飾られ、シクラメンや山茶花を活け、季節感があつた。神棚を祭り、月の初めには利用者も一緒に拝んでいる。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 思い思いの場所で居眠りができたり、おしゃべりができたりくつろいで過ごせている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居の時家族にはできるだけ自宅で使っていた物を持参して頂くように言っているが、新しい物を購入される方が多い。中には家族の方が季節感が実感できるように室内の装飾にも気を配って頂く方もある。 (外部評価) 布団で休む方には畳を敷き、対応している。仏壇や位牌を持ち込み、職員にお茶をあげてもらい、拝んでいる。編み物が得意な方は、人形に毛糸の服を編んで着せ飾っている。今後も家族の協力を得ながら、その人らしい居室にしていきたいと考えている。	※	利用者の意見を聞きながらもっと自分らしさを出していけるような環境を整えて行きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 共用空間は24時間自動換気である。トイレ、居室、居室のクローゼット内の消臭にはEM液や市販の消臭剤、脱臭剤等も使用している。床暖房の調節や冷暖房の調節もこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室、トイレ、浴室、廊下非常階段、スロープ、玄関前等適所に適切な手すりを設置して身体機能の維持に努めている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 居室やトイレなど見やすい表示や目印をつけたり、目線にあわせた位置にも表示をしている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 花のみずやり、咲きがらとり、野菜畑の世話などそれぞれ得意分野で活動してもらっている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	散歩、おやつ、通院、夜勤時などマンツーマンや比較的少人数での話、また利用者同士の会話のなかに思いや願いを知ることができる。しかし意思表示の出来ない方もあり②とした。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	昼食後のひと時、午前午後のおやつするとき
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者はそれぞれマイペースを維持しながら生活している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一緒に何かをするとき(日常の作業、散歩、おやつ、歌、話し相手、通院時など)
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	遠出をするときはそれなりの職員を増やしているので問題なく全員でかけている。日頃の散歩などは利用者の状況などにより限られた利用者になることもある。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	体調の変化にはいち早く対応しているので不安はないと思う。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	落ち着いた状態で過ごされている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	日頃から信頼関係ができています。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	家族親族以外にはボランティア、友人、知人、中学生など。毎月20数名の方が訪問頂いている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	理解者は増えてきていると思う。病院などで知らない人からもよく声をかけてもらう。
98	職員は、生き活きと働けている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	地域の方に認められていることが職員の励みになっている。加えて運営者の理解がある。常勤非常勤の区別なく責任を持って仕事をしている。希望通りの休みが取れているなど。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	帰宅願望の強い人には、あれこれ理由を言って引き止めているので、納得はされても本心はどうだろうか？
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	何か気になることはありませんかと機会あるごとに尋ねても良くして貰っているのと返事が返ってくる。面会時に頂き物が多いことから感謝の表れと思える。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

食事は毎食作る人が違うのでそれぞれの家庭の味が味わえると利用者さんから好評である。 広い野菜畑で新鮮で安全な旬の物を食材として提供できている。利用者さんと一緒に世話をしたり、収穫の喜びを味わうことができる。また、畑の管理には運営者自ら積極的にして頂いている。そのことから利用者さんとのつながりも大きい。またボランティアさんとかかわりも大である。季節の行事も多く取り入れてメリハリのある生活を重視している。環境的にも自然災害の危険もなく、見晴らしもよく静かで危険のない散歩コースがあり、自然の営みを実感できる。利用者さんの体調管理は言うに及ばず職員も自らが健康でなければよいケアはできないことを自覚して健康管理に努めている。病欠者もなく離職者もないことも自慢のひとつである。ごみの分別にも注意を払いEM液を使って環境にも配慮している。”あいの里はいいね。入居するのならあいの里がいいね”とって頂く声を励みに地域に愛され、地域に役立つグループホームを目指して頑張っていきたいと考えています。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム あいの里

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)
氏名 渡邊 カスミ(真田 ハル子)

評価完了日 平成 19 年 10 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 独自の理念をつくっている。いつでも誰でも目につきやすい所に貼って理念の啓発に努めている。 (外部評価) ホームを大きな一つの家庭と捉え、利用者と職員が共に家族の一員として支え合うことを第一に考えている。さらに、地域密着型サービスを踏まえ、利用者が地域住民として安心して暮らせるよう支援していくことを理念として謳っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念の実践に向けて取り組んでいる。 (外部評価) 玄関、居間の目に付き易い場所に理念を掲示し、共有している。利用者にも「私たちは家族ですよ」と日常的に声をかけ、職員のケアを気兼ねなく受けられるよう配慮している。また、家族の一員として、持てる力を発揮してもらえるよう役割を担ってもらい、職員全員が感謝の言葉をかけている。その時の利用者の笑顔が印象的であった。		職員会議等にも機会あるごとに理念の理解と日々の実践について話しあっている。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 入居時には必ず利用者、家族さんに理念については十分説明し理解を得ていると思っている。また家族会の折りやホーム便りに於いても理念について話をしたり、記載している。地域の方や運営推進会議の時にも説明をして理解を得るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) いつも協力していただいている。		毎日の散歩や買い物の時、通院、理美容室での会話を通して気軽に挨拶ができています。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の自治会に組入りをして共同作業、常会、催し物にも参加している。回覧版もまわしてもらっているのので、利用者さんと回覧版を持っていく。敬老会の演芸の練習にも集会所を気持ちよく使わせてもらった。 (外部評価) 自治会に加入し、地域の会議や共同作業には運営者が参加し、地域との付き合いを大切にしている。また、中学生の職場体験を受け入れ、夏休みには中学生がボランティアで来訪し、利用者を楽しませている。運営推進会議のメンバーから広がった地域のボランティアの方々に、外出時や野菜畑の世話等でも協力を得ている。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) できていないがやってみたいとは思っている。	※	利用者と職員が一緒になって地域に貢献できるものは何か？ 又職員は認知症介護のプロの立場で役に立つことはないか考えてみたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 全員が自己評価に取り組み、意義は十分理解できている。 (外部評価) 運営者、管理者、職員は、評価の意義を十分理解している。職員一人ひとりが自己評価に取り組み、1か月間毎日1時間、出勤の職員で話し合い検討し、まとめている。自己評価の結果、利用者の居室をその人らしくし、居心地よく過ごせるよう支援していきたいとの共通意識を持っている。	※	外部評価で指摘されたこと、また自己評価をして気づいたことを改善して行きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ホーム内のことはすべて報告し、適切なアドバイスを頂きサービス向上に活かしている。委員さん達は自分の事として真剣に討議して頂いている。 (外部評価) 2か月に1回開催し、ホーム側からは、行事報告や予定の説明を行っている。行事予定に対し、メンバーからボランティアの申し出があり、協力を得ている。積極的な意見交換があり、畑の水遣り用に雨水を溜めてはどうかというホームの案に対し、地域の方から、地下水を利用するとよいとの意見が出され、増築時に実施することを決めている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市町村担当者とは気軽に何でも相談できる関係である。介護保険の訪問調査にも度々訪問して頂き職員、入居者とも打ち解けて話ができる関係である。 (外部評価) 年に1, 2回介護相談員が来訪し、利用者と話し、サービスの質の向上のために助言している。ホーム内外の改築の際、市担当者に相談し、指導してもらっている。また、地域包括支援センター主催のケアマネ連絡会に出席し、情報交換し、居室の空き状況を報告している。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) これらの制度に関する講演会には度々参加しているが、まだ十分には理解できていない。今のところ必要性も感じていない。	※	権利擁護や成年後見制度についてもっと学びたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待については日頃から十分理解している。身体的な虐待は絶対的に行っていないが、言葉の虐待にも十分注意するよう指導している。	※	高齢者虐待法関連についてはもっと学ぶ必要がある。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居契約の際十分な時間をとって説明をしているので理解して頂いているものと思っている。またその際何でも気になることが出てきたときには遠慮せずに言って下さいと伝えている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) やれていると思っている。利用者の表情やしぐさ、態度などから何か訴えたいことが察せれば個別に話しを聞く機会を作って対応している。その結果は申し送り、職員会議等に図って対処している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会時や利用料納入時、お便り等において報告し、病状等の変化は電話で直接報告をしている。金銭管理についても随時報告している。 (外部評価) 家族の面会は利用者の喜び、との認識から、少なくとも月1回は面会に来てもらえるよう、利用料を現金集金にしている。面会時には利用者の暮らしぶりや健康状態について報告し、金銭管理についても小遣い帳で確認してもらっている。利用料の請求時に、利用者の素敵な写真を多数掲載した季刊のホーム便りや手紙を添えて送っている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居時は勿論、面会時等にも意見や苦情処理については十分説明をしている。苦情らしき意見を頂いたときはその都度迅速に対応している。 (外部評価) 退居した利用者の家族が、お世話になったホームのためにボランティアで来てくれる事からも、家族との信頼関係が良好であることがうかがえる。面会時に声をかけ、要望を直接口頭で聞いている。なお、苦情相談窓口は重要事項説明書に明記し、入居時及び面会時に繰り返し説明している。		玄関に「何でもご意見箱」をおいているが、直接口頭や電話で言っている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月1回はユニット別に職員会議を全員参加で行っており、運営者もその都度出席している。職員は気兼ねなく発言できる機会がある。運営者は職員の意見を十分に聞き対応している。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 行事等や利用者急変時、勤務者をふやして無理のない勤務ができ、利用者、家族の安心安全に努めている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 当社は福祉関係は当ホームだけであり異動はない。離職者もない。2ユニットであるが、自由に行き来し合同で行う行事も月に2~3回は行っている。職員も必ず出勤時や退社時には他方のユニットに顔を出すようにして馴染みの関係を築いている。 <hr/> (外部評価) 職員間の関係が良好で、運営者の理解もあることから、職員の異動や離職はないが、利用者の居室が変更した場合を想定し、他方のユニットの職員や利用者も顔馴染みになるよう1階と2階で交互にミニ喫茶を開く等、2ユニット合同の行事を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修等には必ず2名ずつ参加できる体制で、常勤、非常勤を問わず研修を受ける機会を設けている。人材育成のための研修も計画的に取り組んでいる。運営者は非常に協力的で研修参加者は勤務として取り扱っている。 <hr/> (外部評価) 運営者は、職員育成のため、研修参加を勤務扱いにし、参加費も負担している。職員も参加意欲があり、研修に参加した職員は、月1回のケア会議で報告会を開き、伝達講習している。ホーム内では、自己評価のため、項目の理解とねらいについて学習会を開いている。		研修参加者にはレポートの提出を求め、職員会において報告も義務付けている。職員は真面目に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 研修会時の情報交換や相互評価事業にも参加しお互いのホームの質の向上に向けて努力している。グループホーム以外の特養や老健にも利用者を伴って訪問時交流をしている。 (外部評価) 外部研修参加の際に情報交換したり、県グループホーム連絡協議会主催の相互評価事業に参加するなどしてサービスの質の向上に役立っている。同業者との交流を通じ、他ホームのモニタリングの方法を取り入れる等、積極的により良いケアを目指している。	※	連携をとっている老健の納涼祭には、招待して頂き楽しいひとときを過ごしているので、ホームにもお返しに招待できるような行事をしたいと思っている。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 普段から何でも相談できる関係を作っている。年に2～3回は親睦を深める行事も行っている。運営者も非常に好意的に支援してもらっている。社内の参拝など行楽を兼ねた行事にも誘って頂いている。また各自好きなサークル活動でストレス解消を図っている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は職員を大切にきめ細かな心配りをされている。職員はやる気があり、向上心を持って仕事をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 信頼関係が一番大切だと考えており話を十分聴くようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用者と同様に考えているが特に家族との信頼関係がより良いケアをしていく上には不可欠であると思っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ショートもデイもまだ対応出来ない状況であるが比較的短期(3ヶ月程度、または冬の間)の入居については柔軟に対応している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 数日間のテスト入居など必要に応じて柔軟に対応している。 (外部評価) ホームに見学に来てもらい、ホームの雰囲気を感じてもらっている。介護老人保健施設からの利用が多いが、在宅の場合は自宅も訪問している。今の所、入居後に不穏な様子もなく、すぐに馴染めている。入院先の主治医からの要請で、テスト入居を数日間行い、馴染んでから入居した利用者もいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 職員は人生の先輩として尊敬しながらケアに努めている。日頃の生活のなかで教わることも多々ある。 (外部評価) 知識豊富な利用者から日常的に教わるが多く、特に歴史に関する事柄は興味深く拝聴している。また、利用者と一緒に歌を歌う際、途中で忘れた歌詞を、皆で少しずつ思い出しながら歌い終えた時、利用者と職員が共に喜びを分かち合う場面があるとうかがった。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 普段から信頼関係を保ち、情報を共有しながら支えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 利用者と家族が離れたことによるダメージを最小限に食い止める工夫、また入居により関係が良くなっているケースなどもある。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人が入居前にかかっていた医療機関や薬局、主治医との関係を継続したり、復活したりして馴染みの関係を維持している。盆彼岸には墓参りにも帰ったりして近所の人との関係を断ち切らないようにしている。面会もいつでも気軽に来て頂けるような配慮もしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) マイペースを尊重しながらも家族のような雰囲気でお互いが助け合い、支え合っている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 特養などへの住み替えについても、施設と情報交換をしたり利用者を訪問したりして馴染みの関係を継続している。在宅の場合は担当ケアマネ、家族とも連携をとり相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) マイペースを尊重しながらその人らしくを基本に取り組んではいるが、まだ十分とは言えない。 (外部評価) 一人ひとりの利用者との対話を大切にし、会話の中から利用者の思いや意向を把握するように努めている。中には無口な方もいるため、声かけを工夫し、その時々利用者の喜ぶ表情やうなずきから判断している。最近センター方式のシートを導入し、さらに詳しく把握するよう取り組んでいる。	※ ※	センター方式のシートを使って検討したいと思い一部取り組みを開始したばかりである。 その人らしい暮らしを支援していくためには、利用者一人ひとりの希望や持てる力を把握することが大切であり、ホームで取り組み始めたセンター方式のアセスメントシートを蓄積し、役立てていくことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の面接、担当ケアマネからの情報、家族、本人からの聞き取りや友人知人の面会時の話からも把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) マイペースを尊重しながら共同生活の中で個々の出来る力を引き出すように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、特に家族には必ずケアプランについての意向を伺いプランに反映している。職員は課題について全員（ユニット別）が意見を述べたり情報の共有をはかっている。 <hr/> (外部評価) 入居時に本人及び家族の希望を聞き、入居後に利用者のできること、できないことを見極め、アセスメントシートを作成している。それを基に職員全員で意見を出し合い、介護計画を立てている。新たな計画を作成する前には必ず本人や家族の意向を聞き、介護計画に反映させている。常勤と非常勤の職員二人組の担当制に移行中である。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月ごとのモニタリングとケアプランの見直し、更新時や身体状況の変化に応じて適宜現状に即したプランに変更を行っている。 <hr/> (外部評価) 基本的には3か月に1回見直しをしている。身体状況の変化があった場合は即時見直し、新たな計画を立てている。管理者が、同業者が行っていたモニタリングの方法を取り入れ、日勤者が毎日サービス目標を評価するようになり、職員も日々介護計画を意識し、見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) まだまだ十分とは言えないのじゃないかと…気づきや工夫が他にもあるのでは？	※	センター方式のシートを使えばもっと良いものになるのではないかと考えているので実践したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 当事業所は多機能ではない。 (外部評価) 利用者の要望に応じ、花見、墓参り、買い物、通院等柔軟に支援している。大勢の時は車いすをトラックで運んだり、リフト付きの介護車両を用いている。また、訪問看護師と利用者の状態を相談し合い、薬を減らしていく支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 地域資源の協力は必要に応じて受けている。(一般ボランティア、演芸ボランティア、中学生の職場体験、サマーボランティア、ウインターボランティア等)		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 他のサービスの利用はできない。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域包括支援センターの職員とも関係はできている(包括主催の会合にも参加している)が協働するような必要性は今のところない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 十分できている。定期的に受診介助や検査、服薬支援をおこなっている。町外の受診は原則家族にお願いしている。 (外部評価) 入居前からの馴染みの医師に引き続き診てもらえるよう支援している。受診介助は管理者が行い、結果は電話で家族に知らせている。インフルエンザの予防接種は協力医療機関の往診により実施している。また、定期健診としてそれぞれのかかりつけで胸部レントゲン写真の撮影もしている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 必要な利用者については専門医にもかかっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 受診先の看護師とは何でも相談できる関係であり好意的である。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院した場合には、職員の誰かは毎日訪問し情報を得るように努め、主治医、看護師との連携に努めている。信頼関係も大切にしている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 利用者、家族の意向を第一に主治医と相談しながら対応している。情報は職員間で申し送り等で共有している。 (外部評価) 重度化した場合は、家族の意向を確認し、主治医と相談の上、ホームのできる限りの支援をしている。今後も、本人、家族の要望に沿えるよう、積極的に取り組んでいく方針である。そのためにも、管理者は、今後看取りケアについての勉強会が必要であると考えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 利用者、家族の意向を第一に主治医と相談しながら対応している。スタッフ間でもそのことについて十分話し合っただけ対応している。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 使い慣れた物品を持ち込んだり、施設からであればベッドの向きなども可能な限り再現するようにしている。家族にも住み替えによるダメージについて話し協力を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 個人の尊厳を傷つけない対応、言葉かけに努めている。引継ぎ等にも個人名は出さないようにしている。 (外部評価) 居室の引き戸の内側には長めの上品な暖簾を付け、戸が開いても廊下から直に居室の中が見えないよう工夫している。申し送り時にも、利用者の名前を声に出して他の利用者に聞かれないよう、書類を広げて伝達している。声かけは優しく、柔らかな方言で行われている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 本人が自己決定できるような言葉かけや待つゆとりを持って対応するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々のペースを大切にしている。 (外部評価) 散歩の希望があるときは、1日に何度も出かけている。外出の好きな利用者には、玄関周りの花の世話や水遣りをお願いし、自由に外に出てもらっている。入浴日に拒否があった場合は、無理強いせず、翌日の入浴を約束している。テレビで紅葉狩りを見ていた利用者から見に行きたいとの希望があり、当日早速出かけたこともある。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 衣服の選択、理美容も本人の希望にそって支援している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜の収穫、下準備、食事、後片付けと個々のできる力を見極めながら職員と共に楽しんでしてもらっている。どんな些細なことでも必ずありがとう！助かりますなどと礼を言うように心がけている。 (外部評価) 食材の下準備、机・食器・お盆拭き、買い物を職員と利用者が一緒にし、食事中も和気藹々と話しながら食事を楽しんでいる。一人ひとりが自分のペースで食べているが、食べ始めは挨拶の係の利用者が全員が座るのを待ってから挨拶し、一緒に食べ始めている。自分たちの育てた野菜など、新鮮でおいしい材料を使用している。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 身体状況を考慮しながら支援している。		ホーム内行事での飲酒（普段は飲酒の習慣はない）ミニ喫茶では好きなメニュー選び、おやつ時希望の飲み物を出している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 昼間は布パンツで夜だけ紙パンツにしたり、尿パットを昼夜使い分けたりしてなるべくオムツの使用を少なくするように努めてはいる。トイレは洗浄乾燥機能つきで清潔が保持できる。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 基本的には隔日であるが、夏場など希望があればシャワー浴など適宜対応している。また便失禁があれば下半身浴なども随時行っている。 (外部評価) 利用者のゆっくり浸かりたいという希望に沿い、一人の入浴時間を長く取っている。一人ひとりの持てる力に応じて、自分で入浴できる方には見守りと声かけで支援している。基本的には1日おきの入浴であるが、入浴日に拒否があった場合は、強要することなく、翌日入浴する約束を利用者と交わすなど柔軟に対応している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 室内の明かりや室温寝具等こまめに気をつけて安眠の確保に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 家族の一員としての役割、できる力を活かせるような支援を心がけている。カラオケで懐メロを歌ったり、手作りの歌本をつくり童謡や唱歌を歌い大きな声を出すことでストレス解消にも役立っている。 (外部評価) 家事を進んでする利用者が多く、掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、台拭き、食事の下準備、食器拭き、お盆拭き、買い物、畑仕事等の役割を担っている。調査日にも、気持ちよく手伝い、職員からのお礼の言葉に笑顔で答える姿が見られた。カラオケで歌うことや両ユニット合同で開いているミニ喫茶は、利用者の楽しみになっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には管理者が預かっているが、お金を持っているといわれる方については小額を持たせていて、時々確認をしている(問いかけて) 家族にもそのことを伝えてある。お金を持っているも持っていないも不安になる方もあり、個々の対応で良いと思っている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気の良い日には体力に応じた散歩や日向ぼっこ、ホームの買い物の手伝い、野菜畑や花壇の世話など個々の体力を見極めながら支援している。 (外部評価) 外出は、利用者の気分転換のために重要であると認識し、天気の良い日は車いすの方も含め、散歩に出かけている。散歩は長短それぞれコースがあり、利用者の身体状況等により選んでいる。毎日、ユニットごとに利用者1～2名と食材の買出しに行っている。また、野菜畑や花壇の手入れ、行事での外出も多い。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 町外での行事にも出来る限り出かける機会をつくり、ボランティアの協力を得ながら出かけている。コスモスまつり、かまぼこ板の絵展覧会、そうめん流しなどは年中行事である。家族も機会をとらえては適宜ドライブや親戚の家を訪問したりされる。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙を書くように働きかけたり、電話の希望があればその都度対応している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会時間の制限もなくいつでも誰でも自由に面会できゆっくり話が出来る環境をつくっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束はおこなっていない。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 居室に鍵はない。玄関の鍵は夜遅出が退社してから施錠し翌朝7時前にははずしている。 (外部評価) 居室や日中の玄関には鍵をかけていない。現在外出傾向の強い利用者はいないが、常に見守りをしており、玄関に佇む利用者や帰宅願望のある利用者には声をかけ、話をしながら気を紛らわせるようにしている。また、外出の機会を多く持ち、ストレスを溜めないよう配慮している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 一人は絶えず見守りや利用者の行動が把握できる位置で記録を書くなどして安全に気を配っている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 危険物となりそうな物品の保管は職員間の取り決めにより利用者の目の届きにくい場所に保管している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 身体状況の変化による事故を未然に防ぐように、申し送り等で徹底している。	※	それぞれ個別の事故対策マニュアルを作成したいと考えている。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 応急手当の訓練は受けているが、実際にできるかは疑問がある。	※	応急手当や初期対応の訓練を定期的に行いたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) ホーム単独での避難訓練を毎月1回行っている。非常階段も傾斜を緩やかにし、手すりも設置した。近所の協力も得られる。消防詰り所も近い。運営推進会議で消火栓の設置も検討してはと言うことで、地区で相談をして頂く予定になっている。 (外部評価) 年2回、昼・夜間想定で消防署の指導のもと避難訓練を実施している。加えて月1回ホーム独自に避難訓練をし、夜間想定で全職員が誘導できるよう順番に訓練している。非常階段の傾斜を緩やかにし、手摺りを設置したため、避難し易くなっている。非常階段に慣れてもらうため、散歩の際に繰り返し利用している。		台所のガステーブルを火災防止のためIHに替えた。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 入居時や身体状況の変化に応じて家族には説明し理解を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日のバイタルチェックにより体調の変化を早期に発見し臨時の受診で対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬の情報は職員間で共有している。通院介助はすべて管理者が行っており、受診状況、検査結果、薬の変更は申し送り個人との介護記録に記載している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 水分補給をこまめに行い、繊維性の食事、日々の散歩など気をつけているが、下剤の必要な方は半数いる。排泄チェックを行い必要最小限の服用にしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後歯みがきを行っている。歯のない方も口腔内の洗浄をして口の中に食べかすを残さないように気をつけている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食の食事摂取状況を記録して1日の様子が一目でわかるようにしている。身体状況に応じて食べやすい食事形態にしたり、飲み込みを容易にするためとろみ剤を使うこともある。水分量についても気をつけている。 (外部評価) 管理栄養士の立てた献立に基づく食材を購入し、摂取カロリーや栄養バランスについて大体の目安を把握している。食事量は、主食と副食に分けて毎食記録している。水分をこまめに摂取できるよう支援し、1日2リットル近く摂取できている。また、糖尿病の方には主食でカロリー摂取を調節している。	※	ホームでは、知り合いの栄養士に、栄養バランスやカロリー摂取量について専門的な観点からチェックしてもらうことを計画している。専門的な立場からアドバイスしてもらえるよう、定期的に点検してもらうことを期待する。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 普段から手洗い、うがいの励行、消毒薬を使つての清掃、巷で発症すれば、警戒モードの対応、感染者が出た場合の対応と切り替えて行っている。職員については病原菌を持ち込まない、持ち出さないように心がけている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材は毎日購入し鮮度保持に努めている。食器や調理器具の衛生にも注意を払っている。(消毒、乾燥)		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関先にベンチを置き日向ぼっこや外気浴をして気分転換を図ったり、畑やプランターには季節の花を植えて親しみやすい環境である。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 行事事の写真の貼付やインテリア、神棚の設置、季節の花を生ける、鈴虫の飼育などを通し生活感や季節感が実感できる。 (外部評価) 玄関周りは葉牡丹、パンジーを植え、明るい雰囲気である。居室やトイレの間口を広げ、車いすに対応できるように改修している。12月中旬の調査日にはクリスマスツリーやリースが飾られ、シクラメンや山茶花を活け、季節感があつた。神棚を祭り、月の初めには利用者も一緒に拝んでいる。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 思い思いの場所で居眠りができたり、おしゃべりができたりくつろいで過ごせている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居の際使い慣れた物を持って来て頂くようお願いをしているが、新しい物を購入される場合が多い。 (外部評価) 布団で休む方には畳を敷き、対応している。仏壇や位牌を持ち込み、職員にお茶をあげてもらい、拝んでいる。編み物が得意な方は、人形に毛糸の服を編んで着せ飾っている。今後も家族の協力を得ながら、その人らしい居室にしていきたいと考えている。	※	利用者の意見を聞きながらもっと自分らしさを出していけるような環境を整えて行きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 共用空間は24時間自動換気である。トイレ、居室、居室のクローゼット内の消臭にはEM液や市販の消臭剤、脱臭剤等も使用している。床暖房の調節や冷暖房の調節もこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	(自己評価) 居室、トイレ、浴室、廊下非常階段、スロープ、玄関前等適所に適切な手すりを設置して身体機能の維持に努めている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 居室やトイレなど見やすい表示や目印をつけて混乱を防ぐ工夫をしている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ベンチを利用した日向ぼっこや休憩、ベランダからの花火見物、野菜畑の世話や、野菜の収穫等の活動ができている。	※	戸外で食事をしてみたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	おやつの時や夜勤の時など落ち着いて話す機会があり思いや願いを知り援助できていると考えている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	おやつや散歩の時などゆっくりと話を聴くようにしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	自室で過ごしたり、リビングで過ごしたり思い思いのペースで過ごして貰っている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一緒に歌を歌ったり、しぐさや会話のなかや作業を一緒にしているときなどの表情が嬉しそうである。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	車椅子で介助、両杖でよちよち歩き、全盲の方があり、他の利用者のように毎日の散歩はできないため②とした。但し行事としてのお出かけは全員で行っている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	定期的な受診と日々のバイタルチェックにより、異常の早期発見治療に努めている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	落ち着いた状態で過ごされている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (自己評価) ① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時によく話をしてくださる。日頃から信頼関係が保たれている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ① ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	月平均30人程度の面会がある。それ以外に面会簿に記入しないボランティアや中学生のボランティアがある。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域に少しずつ浸透し理解されていることを実感する。病院などで知らない方から声をかけて頂く。地域の行事に声をかけて頂く。牛鬼や御輿が来たり、亥の子に子供達が来てくれる。
98	職員は、生き活きと働けている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	お互いに理解し助けあえるようになった。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	まだいろいろ意見を言って下さる方もあるが、それはホームを良くしようと思つての意見と真摯に受け止めて改善に努めている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会時に感謝の言葉を頂く。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

あいの里は国道から100Mほど入った住宅地の端にあり四方が見渡せる小高い丘にあります。事業主の交代により建物の内外を点検し利用者さんにとって、また働くスタッフにとって”より安全に、便利に、快適に”生活や介護ができるように可能な限りの改修を行いました。また広い畑を購入し季節の野菜を育て収穫の喜びを利用者さんと共に味わっています。毎日のように行っている散歩は車の通りの少ない畑の中の市道であり、農作業中の近所の人達と立ち話をしたり季節の移ろいを実感できます。地域のボランティアさんが畑の管理をして頂いたり、遠出の行事にもお手伝いをして頂き非常に助かっています。中学生の職場体験やサマーボランティアなどで学生との交流もでき利用者さんも子供達の来訪を楽しみにしています。私達のユニットには満99歳で全盲の方がいらっしゃいます。先般この方の100歳のお祝いをした折り、謝辞を述べられたとき、「今まで3カ所の施設を経験し足が弱っていたが、ここに来てから毎日散歩をさせて貰うのでこんなに元気になりました。」と大勢の前で話して頂き私達は感激の涙を流しました。これからも利用者さんの安心安全を第1に考え安らぎのある温かい地域に開かれたホームを目指して頑張っていきたいと考えています。